



帯広市立啓西小学校 令和5年度 | 学校改善プラン②～豊かな心・健やかな体～

北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 帯広市教育研究所 指定研究実践協力校 北海道金融広報委員会金融教育研究校

期間 令和5年4月10日～令和5年7月21日 ※ 令和5年7月検証・改善 → IIの作成 → 令和5年12月検証・改善 → IIIの作成 → 令和6年度に向けて

「令和の日本型学校教育」の構築 ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

【教育目標】 進んで学び 心やさしく 元気な子 【校訓】 どんどん わくわく いきいき

<今年度の重点> 時を守り 場を清め 礼を正し 物事に向き合う啓西っ子

R5ミッション「指導をそろえる」 ①時を守り場を清め礼を正す ②生徒指導の機能を生かす ③学力向上～向き合える力を育む ④働き方改革 新しい文化を築く

		「豊かな心の育成」R4学校評価より				「健やかな体の育成」R4全国学力調査・全国体力調査・学校評価より		
実態と対応	爽やかなあいさつ	時間を守る意識	いじめのない仲間づくり	自己肯定感・有用感	規則正しい食生活	運動習慣と健康	安全・安心な学校	
	○保護者87%、学校は100%が指導されていると回答し、児童の約90%が「自ら進んであいさつしている」と回答している。特に「そう思う」の回答が前期比7pt以上向上している。 ▲保護者からは「家庭ではあまりしない」との声もあることから、学校と家庭とがより連携した指導を行っていくことが重要である。	○保護者、学校の98%以上が「時間を守る」指導を行っているという回答し、児童の87%が自分自身で気をつけていると回答している。 ▲児童の9.9%が時間への意識が低いことから、3学期以降も指導を徹底していく必要がある。特に家庭の教育環境が良くない児童には今以上に個別指導と家庭との連携を行う。	○94.5%の児童がいじめをしない・させないよう心がけている。保護者も88%が指導されていると回答している。教職員の100%にあわせているが、意識向上が見られる。 ▲前期より、児童と教職員の数値が低下している。「嫌な思いをしている」という児童は少なからずいることから指導徹底に努める。	○保護者の92%が、学校は自己有用感を育む指導を行っていると評価している。児童も95%が学校（悩みや問題の解決）を評価している。 ▲前期から高学年児童の自己肯定感が低かったことから、キャリア教育や道徳教育を充実させ、将来への希望を与え中学校へと繋ぐ。	○2年生以上で朝食を毎日食べている児童が87.2%、食べないことがある児童が9.2%となっている。 ▲全く食べていない児童が3.5%（10人程度）いることから、個別の食生活習慣定着のための指導が必要である。家庭との連携も困難を極めているが、保護者と粘り強く話し、子どもたちの健やかな体づくりを推進し	○男女共に長座体前屈が全国値より極めて高い結果となった。男女共に8種目中5種目、全国値を上回る結果となっていた。児童の約50%が平日1時間以上の運動をしている。 ▲男女共に50m走、ソフトボール投げが全国値を下回り、女子はソフトボールが全国値を下回っている。全体的に走力に課題が見られ、放課後等の平日の運動の習慣育成も必要である。	○95.2%の児童が安心して楽しく登校できている。保護者においても94.4%が見守り活動は有効であると捉えている。 ▲児童と保護者の4%が見守り活動を含め、コロナ不安等で安心した学校となっていないと評価していることから、今後は100%児童が安全に楽しく登校できる指導体制を構築し、安全安心な学校づくりを行う。	
	児童：3.5↑ 保護者：3.3↑ 学校：3.8↑	児童：3.4→ 保護者：3.5↑ 学校：3.9↑	児童：3.5↓ 保護者：3.1→ 学校：3.7↓	児童：3.7→ 保護者：3.2↑ 学校：3.7↑	毎日食べている：78.39% ほとんど毎日食べている：8.9% 食べないことがある：9.2% 食べていない：3.5%	50m走：男(▲0.87)女50m走(▲1.01) ソフトボール投げ：男(▲3.6m)女(▲2.4m) 平日学校外での運動⇒1時間以上…49.5%、1時間以下…37.2%、しない…13.3%	児童：3.7↓ 保護者：3.5→ 学校：3.8→	
課題	働き方改革と働きがい改革 働きやすい職場環境づくりと業務改善	検証改善サイクルの確立 組織的な取組の充実	道徳指導体制整備と学習の充実 問題解決的な学習や「考え、議論する道徳」の実現	関係機関や家庭と連携し多様な教育機会の提供 多様な児童への学習機会の創出と合理的配慮	検証改善サイクルの確立 組織的な取組の充実	授業改善の推進 「主・対・深」学びの実現に向けた授業改善	運動習慣の形成のための環境整備 日常的な運動機会の創出	
目標	K'sプランの完全実施と一人一人の意識改革を行う。	100%の情報共有率を目指す。	自分の考えを深め、話し合い活動に取り組む児童を90%以上にする。	合理的配慮に基づいた学習機会の確保と指導の徹底を図る。	校内において常に情報の共有を行う。	体育の授業は楽しいと思う児童を90%以上にする。	様々な運動機会を設定し、体力の向上を図る。	
改善の方策	コアチームによる業務改善 ○月の超過勤務を23時間以内 ○1日のワークスケジュールの見直し(必) ○業務の平準化(必) ○夕方打合せ1回のみの実施(週) ○ICTを活用し業務の縮小(必)	日常指導・授業等の充実 ○「考え議論する道徳」の充実により、全教職員でいじめ根絶、命の大切さを指導し豊かな心を育成する。 ○思いやりの心や規範意識を育成し、人の心や考えを尊重する態度を養い自己肯定感・自己有用感を高める。 ○あいさつや返事、規則正しい生活等、基本的な生活習慣の定着を図り、社会で生き抜く力を育成する。 ○体力向上プランに基づき、継続した運動機会を創出し、体育以外での運動の促進を図る。 ○本校の課題を検証し、体育の授業内において弱点強化の取組(柔軟、軽トレーニング等)を行う。			家庭・地域との連携 ○子供のSOSのサイン(虐待、ヤングケアラー)を察知し、保護者や地域、関係機関と情報共有を密にし指導にあたる。(必) ○あいさつや返事の習慣を定着させ、社会で生き抜く力を保護者・地域と協働し育成する。(必) ○望ましい生活習慣定着のために、エリア・ファミリー連携校と協力し「ノーテレビデー」の取組を行う。 ○保護者と連携し「生活リズムチェックシート」の取り組みを行い、健やかな体づくりをサポートする。 ○懇談会等でインターネットやSNS、スマートフォンの使い方について啓発し、よりよい教育環境づくりを行う。			
学年共通	生活習慣と他者意識向上の具体的目標				具体的方策			
	1年生	・礼儀正しく生活し、自分のことを自分でしっかりできる。 ・よいことを認め合う。整列など、全員で行うものを素早く行えるようにする。			・よい挨拶ができていない児童を徹底して褒める。朝の準備、当番活動などを覚え、進んでできた場合は、帰りの会などで褒め、認め合う。 ・互いの良さを見つけ、伝え合う。行動が遅い時にはやり直しをし、できればすぐ褒める。			
	2年生	・8時15分に着席し、朝学習の準備をする。トイレや手洗いを済ませ、授業開始のチャイム前に着席する。 ・整列時に協力して素早く並ぶ。周りを見て、ふさわしい行動をする。			・家庭にも余裕をもった登校を呼びかける。授業終了後には、すぐに机上の準備をさせてから、トイレ休憩を取らせる。 ・○秒整列整列チャレンジを行い、素早く並ぶことができるよう取り組む。小集団で声をかけ合い、ふさわしい行動ができるよう促す。			
	3年生	・授業開始のチャイム前に着席する児童を100%にする。 ・遅刻ゼロデーを1週間1日以上を目指す。 ・「自分から」あいさつができ、廊下を歩いて移動できる児童を100%にする。			・時計を見ながら行動するように声をかけ、授業開始のチャイム前に揃っていたら褒める。遅刻をしないで登校できた日は誉め、遅刻が多い家庭には協力をよびかける。 ・教室移動時「自分から」あいさつできていたか振り返り、意識を高める。廊下を走る危険を考え、周りの人の存在を意識させ褒める。			
	4年生	・授業開始のチャイム前に着席する児童を100%にする。 ・遅刻せずに登校し全員が朝の活動に取り組めるようにする。 ・自分から進んであいさつができ、廊下を歩いて移動できる児童を100%にする。			・授業終了後には、すぐに机上の準備をさせてから、トイレ休憩を取らせる。 ・「あいさつチャレンジ」を行い、積極的なあいさつを促す。			
	5年生	・チャイムで授業を開始する。 ・移動教室の際に、机や椅子を整えることができる児童を100%にする。 ・自分からあいさつできる児童を100%にする。下学年に思いやりの心を持ち、譲り合う。			・授業時間を守り、チャイムで始め、チャイムで終わることを徹底する。 ・朝、入室する際に学級全体に向け「おはよう！」とあいさつをすることを習慣とさせる。 ・低学年を優先し、心身ともにゆとりある行動ができるよう、必要に応じて学年集会を行う。			
	6年生	・授業開始のチャイム前に着席する児童を100%にする。 ・学校のきまりを守って生活しようとする児童を100%にする。			・授業終了後には、すぐに机上の準備をさせてから、トイレ休憩を取らせる。 ・高学年として低学年の見本となる行動を意識づけられるよう声掛けを行う。			
評価	★学校評価(自己評価, 学校関係者評価, 児童・保護者アンケート) ★「学習のきまり」ふりかえり ★いじめ調査 ★学校改善会議 (GKK)				★学校評価(自己評価, 学校関係者評価, 児童・保護者アンケート) ★全国学力・学習状況調査 ★全国体力・運動能力, 運動習慣等調査 ★生活リズムチェックシート ★学校改善会議 (GKK)			



帯広市立啓西小学校 令和5年度 I 学校改善プラン①～確かな学力～

北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 帯広市教育研究所 指定研究実践協力校 北海道金融広報委員会金融教育研究校

期間 令和5年4月10日～令和5年7月21日 ※ 令和5年7月検証・改善 → IIの作成 → 令和5年12月検証・改善 → IIIの作成 → 令和6年度に向けて

「令和の日本型学校教育」の構築 ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

【教育目標】 進んで学び 心やさしく 元気な子 【校訓】 どんどん わくわく いきいき

<今年度の重点> 時を守り 場を清め 礼を正し 物事に向き合う啓西っ子

R5ミッション「指導をそろえる」

①時を守り場を清め礼を正す ②生徒指導の機能を生かす ③学力向上～向き合える力を育む ④働き方改革 新しい文化を築く

全国学力学習状況調査、今年度検証より

R4全国学力学習状況調査・学校評価より

	国語	算数	質問紙	指導方法の工夫	授業改善と基礎学力の向上・朝学習と家庭学習の取組	
実態	○自校採点の結果ではあるが、昨年度の得点率を上回る結果となった。 ▲1二～図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる (37.5%) 2四～文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる (30.4%) 3二～目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる (30.4%) →全体的に、記述問題の誤答、無回答が多かったため、書く習慣を身に付けていくことが今後の課題である。	▲2(3)～正三角形の意味や性質について理解しているか (26.8%) 2(4)～高さや等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるか (10.7%) 3(4)～(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるか (41.1%) 4(1)～百分率で表された割合について理解しているか (41.1%) ⇒意味や理由を問われる問題、また、短答式・記述式の問題についての正答率が低かったことから、定着を図るための工夫をするとともに、自分の考えを表現したり、学習内容を定期的に振り返ったりする機会を設ける必要がある。	○「困りごとや不安時に先生や学校にいる大人に相談できるか」という問いには47%が当てはまり、全国値より11.5pt高い。「学校からの課題でわからないことがあったときに」「先生に聞く」と答えた児童が48.5%おり、全国値より12.9pt高い。 ▲59.1%が1日に2時間以上のゲーム時間があると回答しており、全国値より8.9ptも高く、中でも4時間以上の児童が21.2%もいる。「人が困っているときに進んで助けているか」という問いに4.5%が「当てはまらない」と回答しており、全国値の2.6倍多い。「学校に行くのは楽しい」で「当てはまらない」と答えた児童が全国比7.4pt多く12.1%いる。「自分の意見と違う意見について考えるのは楽しい」には13.6%が「当てはまらない」と回答しており、全国値より7.1pt多い。「家にどれくらい本がありますか」では45.5%が25冊以下で全国値より15pt低い。	○「学校はわかりやすく授業を教えているか」という問いに対し児童の99.1%、保護者の92.4%が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答している。 ▲保護者からは「そう思わない」という回答がなくなりましたが、7%がどちらかといえば「そう思わない」と捉えており個に応じた指導	○平日の家庭学習においては全くしない児童は0%であった。また、自分で計画を立てて学習している児童も36.4%が「よくしている」と回答しており全国値より8.9pt上回っている。 ▲平日の家庭学習では1時間未満が39.4%、2時間未満が43.9%と時間的に少ない。特に2時間以上は16.6%で全国値より8.5pt低い。	○教職員は「わかりやすい授業を行う」の問いに対し「そう思う」が69.2%、「どちらかといえばそう思う」が30.8%と全員の教職員がしっかりと指導を行っている。 ▲児童からも99.1%が「わかりやすく教えてくれている」と回答し、中でも80.8%が「そう思う」と回答していることから、児童の教師への見方も変化してきている。
全国比(前年)				児童: 3.8→ 保護者: 3.3↑ 学校: 3.7↑	【改善に向けて】児童の学習習慣の定着に向けて、教務部中心に児童の実態に合わせた学習方法を提示し、個別指導を行ったが、全校体制、及び継続的に実効性ある指導が必要である。	
今年度(速報)					【改善に向けて】研修部主体で行っている「音読や群読」により読む力の育成が図られている反面、アウトプットする力の育成は不十分であり、榊山教授の助言をいただきながら、授業改善に取り組む。	

課題	検証改善サイクルの確立 組織的な取組の充実	授業改善の推進「主・対・深」学びの実現 身に付けさせたい資質・能力を明確化	学校間、家庭及び地域との連携推進 目指す子どもの姿を職員・家庭と共有
目標	サイクルを確立していると回答している教職員100%にする。	授業の内容がよくわかると回答する児童各教科70%以上にする。	自分で計画を立てて勉強している児童を50%以上にする。

改善の方策	学習環境(形態)整備 ○近隣小中学校と連動した学習規律について指導を徹底し、 小中9年間の学び へ。学力向上プロジェクトチームを活用した検証・改善を行う。 ○学年内の取組を充実させ、 読む力、書く力 を強化する。(榊山教授の助言) ○ 1人1台端末の積極的活用の促進 (指導力と活用力を充実させる。)(必)	日常の授業改善 ○全教科において、学力向上に向けた授業改善を行い、発達段階に応じた 主体的な学習 を進める。 ○算数科において、 習熟度別学習(2～4年) を実施し、低学年児童の学力の底上げを図る。(必) ○ 個別最適な学びの充実と協働的な学び を実践し、「わかる喜び」を体感させる授業を構築する。 ○ 1人1台の端末やICT機器の効果的活用 により、誰一人取り残すことのない授業を構築していく。	家庭・地域との連携 ○学校で 系統性のある宿題・家庭学習 に取り組み、家庭と連携し学習習慣の定着を図る。 ○C・S協議会、家庭や近隣校と連携し、 家庭の教育力の底上げ を推進する。(必) ○家庭が目指す、 中学校卒業後の子ども像、20才の子ども像 を描き、学校と共有する。
-------	--	---	---

	学力向上と学習規律の具体的目標	具体的方策
1年生	・はっきりと音読できる。自分の考えを短く書いて表すことができる。 ・相手の話を聞くことができる。机上の整理ができる。	・音読カードに取り組む・さまざまな音読の仕方を取り入れ、飽きずに楽しめる授業づくりを行う。考えを伝え合う場面を意図的に設定するとともに、肯定的に受け入れる姿勢を示す。 ・よく聞くことでどんなよいことがあるか実感できるようにする。指示を短く端的にし、児童が整理する時間を確保する。
2年生	・言葉のまとまりを意識して音読する。自分の考えを短く書いて表す。 ・授業終了の挨拶後、次の授業の学習準備を済ませる。 ・話を聞く時と話す時の切り替えを素早くする。	・多様な音読法に取り組む。一言日記に取り組む。 ・学習用具を「片付け→準備する」ことを習慣づける。今何をしなければならぬのか、言葉がけをする。
3年生	・はっきりと音読でき自分の考えを短く書いて表すことができる児童を100%にする。 ・授業前に学習準備を済ませる児童を100%にする。 ・忘れ物ゼロデーを1週間1日以上を目指す。	・毎日の国語の授業で、5分程度の音読を様々な音読方法で取り組む。授業終末に振り返りを書く場面を位置付ける。 ・前の授業終了時に学習準備のための声掛け運動を行う。 ・連日忘れ物をしないように、方法をみんなで考え、実行していく。
4年生	・音読ができ、自分の考えを短くまとめ書き表すことができる児童を100%にする。 ・授業前に学習準備を済ませ、忘れものがない日を1週間継続する。	・音読カードに取り組む。国語、算数の時間には、教材文や問題文を音読する時間を位置付ける。 ・授業終末に振り返りを書く場面を位置付ける。 ・前の授業終了時に学習準備のための声掛け運動を行う。整理整頓タイムを設定し、学級活動として取り組む。
5年生	・大卒と聞き取りやすく音読でき、時間内に自分の考えをまとめる児童を100%にする。 ・授業前に学習準備を済ませる児童を100%にする。 ・指名された時には、返事を済ませる。	・授業の中で、音読する機会を多くもつ。書くための要素を授業の中で集めておき、書くことへの抵抗感をできるだけなくす。 ・日直の号令の際に、次の授業の教科名を知らせてもらう。 ・よい返事の児童をほめながら、気持ちのよい返事のイメージをもたせる。個別に効果的な言葉がけをする。
6年生	・はっきりと音読でき自分の考えを短く書いて表すことができる児童を100%にする。 ・授業前に学習準備を済ませる児童を100%にする。 ・身の回りの整理整頓ができる児童を100%にする。	・国語、算数の時間には、教材文や問題文を音読する時間を位置付ける。授業終末に振り返りを書く場面を位置付ける。 ・前の授業終了時に学習準備のための声掛け運動を行う。整理整頓タイムを設定し、学級活動として取り組む。

評価	★全国学力・学習状況調査 ★標準学力検査 ★北海道チャレンジテスト ★各教科の単元テスト ★授業評価 ★学校評価(自己評価, 学校関係者評価, 児童・保護者アンケート) ★「学習のきまり」ふりかえり ★学校改善会議 (GKK)
----	--